

Environmental Activities Report 2022

キッコーマングループ
環境保全活動事例集



当コンテンツにアクセスしていただき、ありがとうございました。

この「環境保全活動事例集」は、キッコーマンとグループ各社の代表的な環境保全活動を、テーマ別に整理してご紹介するものです。

微生物の働きを生業の基礎とするキッコーマンは、創業以来、自然との調和を大切に考えてきました。特に、企業と自然との関わり合いに社会的関心が高まった1970年代以降は、健全な自然保全を重大な経営目標の一つに定め、グループを挙げてさまざまな施策に取り組んでまいりました。

ここに記載されている各種の事例は、キッコーマングループが行った環境保全活動のうち、

(1) 毎年公表している「コーポレートレポート」等に記載された主な環境保全活動事例

(2) 後の参考のために記録しておきたい活動事例

(3) それぞれの活動に関連がある、キッコーマングループ独自の事例

を選んで、それぞれの時点で開示可能な具体的なデータや要請の高い専門的情報などを添付し、テーマ別により詳細な形で取りまとめたものです。(報告書に記載された事例には活動が行われた、あるいは事例集に記載された年度が、それぞれ記されています。)

ここに記載されている事例の中には、現在終了あるいは中止したものもありますが、記録性を重視して本「事例集」からは削除しておりません。

当社のステークホルダーの方々の、あるいは環境問題に関心を寄せられている方々のご参考になれば幸いです。

I. 環境保全体制

1. キッコーマングループ環境憲章

- 1) 環境理念 8
- 2) 行動指針 8
- 3) 重点課題 8

2. 長期環境ビジョン

- 1) 気候変動 9
- 2) 食の環境 9
- 3) 資源の活用 9

3. 環境マネジメント推進体制 10

II. 地球温暖化防止

- 10) ジャケット式保温断熱材の利用 22
- 11) 機材の更新 22
- 12) 排水処理施設でのエネルギー削減 22
- 13) 新機種の導入 23
- 14) 原料サイロの集約 23
- 15) みりん仕込タンクの温度管理の変更 23

3. 物流での工夫

- 1) トラック走行の無駄を排除した工場直送システム 24
- 2) 大型流通倉庫稼働による環境改善 24
- 3) 総武物流の環境方針 24
- 4) 製品物流と調達物流の一元化 25
- 5) モーダルシフトの推進 26

4. オフィスでの工夫

- 1) テレビ会議 26
- 2) 待機電力削減作戦 26

5. 建屋の工夫

- 1) 環境にやさしい野田本社 27
- 2) インバーターエアコン導入 28
- 3) コルエアダクトの採用 28
- 4) 環境にやさしいキッコーマン総合病院 28

6. カーボンフットプリント

- 1) カーボンフットプリント 29
- 2) 「おいしい無調整豆乳1000ml」のCFP 29
- 3) 「特選丸大豆しょうゆ1ℓ」のCFP 29

III. 水環境の保全

1. 水の保全

- 1) 水とキッコーマン 31
- 2) 国連CEOウォーター・マンドート署名 31
- 3) 環境省ウォータープロジェクトへの参加 31
- 4) SDGsへの賛同と協力 31

2. 保全活動

- 1) 工場での工夫
 - (1) 製麴室(せいきくしつ)加湿方法の見直し 32
 - (2) みりん醪(もろみ)冷却水の再利用 32
 - (3) 発酵澱(おり)遠心分離除去作業の廃止による節水 33
 - (4) ワイン充填設備の洗浄方法の変更 33
 - (5) 出荷用コンテナの洗浄方法の変更 34
 - (6) 処理水の再利用 34
- 2) 排水処理
 - (1) 江戸川を守る排水管理 34
 - (2) 「東京湾環境一斉調査(東京湾における流域および海域の環境一斉調査)」への協力 35
 - (3) 上花輪ラグーン委員会 37
 - (4) スーパーオールセトラの導入 37
 - (5) 排水温度の調節 37
 - (6) 排水中窒素・リン除去能力の改良 38

(7) オゾン反応装置の導入	38	2) 緑の環境維持	54
(8) 加圧浮上装置の導入	38	3) 工場緑化推進で経済産業大臣賞受賞	55
(9) 排水(河川への放流水)の水質に新目標を設定	38	4) ボーイスカウトの手賀沼水質調査に協力	55
3. 保全活動の紹介		2. 生物多様性への取り組み	
(1) CDP会合での活動紹介	39	1) 北海道野生動物保護公社への協力	55
(2) 名古屋地区工業用水道協議会での講演	39	2) 生物多様性発表	56
IV. 資源の活用		3) 生物多様性民間参画パートナーシップ加入	56
1. しょうゆ粕の利用		4) 生物多様性ちば企業ネットワークへの参加	56
1) しょうゆ粕の歩み	40	5) みんなで鮭の稚魚を送ろうプロジェクト	56
2) 燃料への活用	41	3. 海外での取り組み	
3) 畜産飼料への活用	41	1) アメリカ	
4) 製紙への活用	42	(1) カリフォルニア工場の環境保全活動	57
5) 畜産飼料の拡大		(2) 慈善基金団体「Kikkoman Foods Foundation, Inc.」を通しての寄付	58
(1) ドライミール製造乾燥設備の導入	42	2) オランダ	
(2) フレッシュミール袋詰め設備の増設	42	(1) 環境浄化協力	58
(3) しょうゆ粕の飼料化100%達成	42	(2) 植林支援	59
2. しょうゆ油の利用		3) シンガポール	
1) しょうゆ油の歩み	43	(1) 人工池造成支援	60
2) 燃料への活用	44	(2) 自然遺産の木を授与される	60
3) 養殖魚用飼料への活用	44	(3) マングローブ植樹支援	60
3. 大豆の粉の活用	44	(4) 水浄化プロジェクト支援	61
4. リサイクル・ループの構築	45	4. バイオテクノロジーを活用した自然保護	
5. 使用済み珪藻土の利用	45	1) ホタルの命	61
6. しょうゆ小袋製品の製造方法の改善と破損小袋の再利用	45	2) 植物ワクチン	62
7. トマト果皮に含まれる抗アレルギー作用の活用	46	VI. 環境マネジメントの推進	
8. リンゴ等残さの利用	46	1. 公害対策	
9. ブドウ種子の抗酸化作用の活用	47	1) 産業廃棄物の適正処理マニュアル	63
10. 酒類輸入容器の再利用	48	2) 大気汚染の防止	63
11. おからの利用		3) 物流の大気汚染防止努力	64
1) おからパウダー	48	4) 黒色汚染(黒かび)について	
2) バッファタンクの導入	49	(1) 発生源防止対策	65
3) 家庭向け製品「豆乳おからパウダー」の発売	49	(2) 環境調査	65
12. ストロー通い箱の採用	50	5) 緊急事態対応訓練	
13. 海藻残さの利用		(1) キッコーマン食品野田工場	66
1) 葉面散布液	50	(2) 日本デルモンテ群馬工場	66
2) 海藻肥料	50	(3) キッコーマン食品高砂工場	66
14. 排水処理汚泥の利用		6) 工場構内作業規定の制定	66
1) 排水汚泥の有機肥料化	51	2. 環境マネジメント	
2) 排水汚泥のスラグ化	51	1) ISO14001認証取得	
15. オフィスでの工夫		(1) ISO14001認証取得(2005年度まで)	67
1) 文書削減プロジェクト	51	(2) 一括認証取得活動	67
2) 事務用品再利用コーナー	52	(3) 新しい国際規格(ISO14001:2015)認証への移行	68
3) 事務用紙の削減	52	2) ITの活用	71
16. Loop(ループ)への参画	53		
V. 生物多様性の保全			
1. 自然保護への取り組み			
1) 清水公園	54		

(5)「PET ボトルリサイクル推進協議会」に参加	154
(6)「食品リサイクル法改正」に協力	154
(7) グリーン購入ネットワーク(GPN)に協力	155
(8) エコ商品ねっとに参加	155
(9)「プラスチック資源循環アクション宣言」に参加	156
(10)「10×20×30 食品廃棄物削減イニシアティブ」の日本プロジェクトに参加	156
(11)「CLOMA(クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス)」に参加	157
(12)「気候変動イニシアティブ(Japan Climate Initiative)」に参加	157
(13) セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの「子どもの食 応援ボックス」に参加	158
3. 環境会計	
1) キッコーマングループの環境会計	
(1) 環境会計とは	158
(2) キッコーマングループ環境会計の歩み	159
(3) 対象範囲(2006年度現在)	159
(4) 仕組み	159
2) 「日経・JBIC排出量取引参考気配」の採用	160
3) 「J-VER制度」の採用	161
4) 「東京都温室効果ガス排出総量削減義務と排出権取引制度」の採用	161
4. エネルギー・資源フロー	161

VIII. 容器・包装の工夫

1. 容器包装委員会	162
2. 容器包装に関する指針	162
3. 容器・包装の歩み	
1) リターナブルなびん(1918年)	163
2) 詰め替え用小型容器(1961年)	163
3) PETボトル(ペットボトル)の導入	163
4) 離脱できるキャップ(エコキャップ)の採用(1999年)	164
5) みりん用1.8ℓHPの把手をPET化(1999年)	164
6) 剥離しやすく洗浄しやすいのりを使用したPET用ラベル採用(2000年)	164
7) 離脱できるTEMPエコキャップ(2002年)	164
8) 御用蔵しょうゆ カートン印刷に水なし印刷を使用(2003年)	165
9) 18ℓ缶天パット接着法をホットメルトからエコクラフトテープに変更(2003年)	165
10) TEMPエコキャップの食品容器への使用拡大(2004年)	165
11) 料理酒ボトルの透明化(2007年)	165
12) 紙パック容器(テトラ・リカルトなど)の採用(2007年)	165
13) しょうゆ750mℓ・500mℓ新容器開発	166

14) 新型エコキャップの採用	167
15) 100mℓPETボトルのキャップにいたずら防止機能新設	167
16) 生しょうゆパウチ	167
17) やわらか密封ボトル	168
18) 密封ボトル	168
19) 密封ecoボトル	168
20) ワインアルミ缶	170
21) ワインPETボトル	170
22) バイオPET樹脂	171
23) 破れにくいラベルに変更	172
24) 紙製伸縮ストローの採用	172
25) 容器にFSC®認証紙を採用	172
26) 商品ラベルにバイオマスインキを使用	172
27) ラベルレス・トマトジュース発売	172
28) スマートパッケージの採用	173

4. 容器・包装の軽量化

1) マンズワイン720mℓびん	173
2) キッコーマン300mℓガラスびん	173
3) BIB(バッグインボックス)	173
4) 900g PETボトル	174
5) 500mℓ PETボトル	174
6) キッコーマンしょうゆ9アイテムの段ボール	175
7) キッコーマン料理酒1ℓPETボトル	175
8) 2008年度の対応	176
9) 1.8ℓPETボトル	177
10) シュリンクラベル	177
11) 1ℓPETボトル	178
12) バリットボックス	178
13) オートール8	178
14) ピロー包装	179
15) 1.8ℓ準耐熱PETボトル	179
16) 飲料用800mℓびん、ギフト製品化粧箱	180
17) 出荷用段ボール箱(カートン)	180
18) 18ℓ缶	181
19) 500mℓ準耐熱PETボトル	182
20) 210gおよび400g硬質多層ボトル用キャップ	182
21) ソース用PETボトルおよびキャップ	182
22) ケチャップ用チューブおよびキャップ	183
23) 400g耐熱PETボトル	184
24) 密封ecoボトル	184

5. その他

1) 環境にやさしい商品に指定	184
-----------------	-----

IX. 製品にこめられた環境配慮

1. non-GMO(非遺伝子組換え)原料の活用	185
2. ポジティブリスト制度に対応した農薬検査	186

X. 環境保全の歩み

- 1. 受賞履歴（1995年以降）187
- 2. 環境保全活動の歩み189